47 中央材料部における滅菌用蒸気の改善 (第2報)

磯崎博司, 加見谷将人, 小野民子, 田中清司, 福島伸明 (岡山大学附属
病院中央材料部), 牧 岳彦, 高橋裕一 (三浦工業メディカル技術部)

第74回大会にて, 当材料部における滅菌用蒸気の改善効果について報告を行った. 今回, 3年間にわたる剪刀類の研磨件数の追跡調査を行い, 蒸気の質との関係を確認したので結果を報告する.

当材料部においては, 蒸気中の鉄分に起因する被滅菌物の錆付着の問題が97年に頻発した. 98年4月にその対策を行い, 蒸気分析による改善効果の確認を実施した. それに対し, 剪刀類の研磨件数は97年度に対し,

99年度は約1/5に激減している. 傾向としては, 蒸気改善から約半年後に効果が顕著に現れた. それらの3年間にわたる研磨件数の減少傾向と蒸気中铁分量との間には強い相関関係があることが確認された. 研磨件数の大幅な減少は直接的な研磨費用の削減につながるのみならず, それに関わる諸作業の減少につながり, 中材業務の改善に大きな効果がある.

48 ウォッシャー・ディスインフェクターの洗浄力の検証

谷村久美, 中西良子, 坂本すが, 小林寛伊 (NTT 東日本関東病院)

使用器具の洗浄・消毒を使用現場で行うことは, 消毒薬による曝露の危険性や, 処理室の汚染拡散と作業者の職業感染の危険性があり, 好ましいことではない. 当院では平成12年12月の新病院開院を機に, 使用現場で個々に行っている器具の一次洗浄・消毒を中央化することにした.

「洗浄+熱水消毒」を自動的に行う装置として, 一次洗浄の中央化にはウォッシャー・ディスインフェクターが不可欠である. 今回, 洗浄・消毒の中央化を試行す

るにあたり, 乾燥した汚染付着物を洗浄できる方法を追及するため, 現在使用中のウォッシャー・ディスインフェクターの洗浄力を以下の方法で検証した. ①テスト用の積載物にテストソイルを塗布し, 従来の工程で洗浄した後, 残留ソイルを目視判定する. ②ウォッシャー・ディスインフェクター用洗浄効果テスト物を従来の工程で洗浄した後, 残留ソイルを目視判定する. ③洗浄工程の変更による洗浄効果の比較. ④洗浄剤の変更による洗浄効果の比較. これらの結果について報告する.